

令和6年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和 7 年 3 月 15 日

西陵	中学校
発寒	小学校
発寒東	小学校

1 西陵中学校区における学校関係者評価

分野	重点項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	改善方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
目指す子ども像	目標の共有化	「未来を拓く発北の子」に向かって、協働的に教育活動を展開することができたか	A	子どもたちに、これからの社会を見据えて、どのような資質能力を育てていくべきかを3校が一体となって考えることができた。それぞれの教職員の個性やアイデアを生かしながら、教育活動の具体化や共有化を更に進めていきたい。	A	A
目指す子ども像	実践の共有	「あいさつ・笑顔・努力」の実現のために、教育活動を具体化することができたか	B	各校の教育活動が、よりよい子どもの姿として現れてきている。それぞれのよさが関係者や子ども間にも共有され、相互啓発を促すことにつなげていきたい。	A	A
学校関係者評価委員会(学校運営協議会)による意見		・3校の行事に出席した際にどの学校の児童、生徒も挨拶をしてくれています。あいさつは9年間の学校生活で根付いていると感じます。 ・未来を担う子どもたちの将来像について、3校での共有が進んだことは大変評価すべきだと思います。具体化された教育活動が今一つ見えにくかったので、より活発な教育活動を期待します。 ・3校が足並みを揃えて今後の教育活動について協働する姿が見えました。推進員としては、地学教を通して教育課程内外で、子どもたちへ様々な体験を提供できたらな、と思います。				

「学ぶ力」の育成	授業改善へ向けての協働	「学ぶ力」の育成に向けて、課題を明らかにし、授業改善を図ることができたか	A	春の研究集会での授業公開や話し合いを通して、それぞれの学校の取組や目指す授業、子どもの姿を共有することができた。chatを通じて、各校の研究資料や指導案の交流なども行えてよかった。次年度も授業を通して、学び合える場を醸成させ、9年間を通じた「学ぶ力」の確かな育成につなげていきたい。	A	A
自治的な活動の充実	生徒会・児童会の連携	自治的な活動の充実に向けて、創造的・協働的なつながりの具体化を図ることができたか	B	夏休みに生徒会活動の様子の写真、生徒会企画提案資料などを共有、資料や写真を見てもらえたことは成果。キラキラセブンデイズは、今回は児童中心の活動が増えた。今後は、先生方がつながるだけでなく、児童生徒がつながることが必要なため、クラスルームなどを効果的に活用し、交流の意図を子どもたちに伝え、実感させていきたい。	A	B
主体性の伸長	行事を通じた相互啓発	児童・生徒の相互啓発を促し、主体性を高めるための行事の系統化を図ることができたか	B	6年生が中学校の合唱練習の様子を見ることができた。コロナあけの小学校での合唱練習でも、実際の中学校での取組を活かすことができた。また、「中学生になるんだな」という実感を持つ児童もでてきた。運動会、発表会のライブ配信など、行事内容の共有を図る仕組みはできたので、積極的に活用しながら、相互系生活を更に進めていきたい。	A	B
自立の促進	学校生活のきまり・キャリアパスポート	児童・生徒の自立を目指して、継続的・協働的に関わる仕組みを具体化することができたか	A	春の交流会を活かし、ポータルサイトを作成することで、3校とも環境を整えることができた。クロームブックについては、小学校では共通の取組を行い、学習の道具として授業に活用できているが、中学校では教科ごとに運用の仕方に差があるため、差の解消を次年度の課題として取り組んでいきたい。キャリアパスポートについても、必要な事項を共通して進めることができた。	A	A
個別最適な学びの支援	学びの支援の手立て	個別最適な学びの支援を実現するために、手だてや情報の共有を図ることができたか	B	3校で情報共有がスムーズにできた。成果としては、不登校の子たちが減り支援が必要となる所に支援できるようになった。教室に入れない子どもたちに対しての支援の方法などについて、今後も積極的に3校で話していきたい。また、特別支援学級間の交流活動を活性化させていきたい。	A	A
一貫性・連続性のある教育(小中一貫した教育)	リーディングDX	地域との協働や教育の効率化に向けて、ICTを活用した教育活動の充実を推進できたか	B	学校と学校、学校と保護者・地域、教職員間での情報共有や情報発信などで、各校でICTの活用を工夫することができた。また、chatを活用し、3校での情報共有、意見交流等を行うことができた。更なる効果的な活用を図るため、スキルの向上だけでなく、日常的に使用することで「見る習慣」「使う習慣」づくりにつなげていきたい。また、端末などのICT環境を整えていくことも今後の課題となる。各校の教職員がしっかりと協働できるように、日程の調整、時間の確保を行う。	A	A
学校関係者評価委員会(学校運営協議会)による意見		・発寒東小学校のリーディングDXの授業を見て、素晴らしいと感じました。学年ごとに段階があることも感じました。教員の方々の努力に頭が下がります。地域はデジタルという意味では、かなり遅れをとっているの、その点を考慮していただけたとありがたい。 ・それぞれの項目については、各校でどうしても温度差は出てしまうものだと思います。ぜひ持続的、かつ無理なく実践していけるように地学教など上手に活用して教員の負担増を避けながらよりよい教育活動になるよう期待します。 ・私たちが実際に見られた場面は少ないですが、カリキュラムの違う小・中学校で先生方の空き時間も違う中、ICT活用により教職員同士細やかな連携ができたと聞いています。不登校支援や中1ギャップなど課題は多いと思いますが、学運協含め3校で連携できている強みが出ていていると思います。				

2 各学校における学校関係者評価

西陵中学校	『開拓』～創造・協力・根気・健康～の重点目標を目指すことを通して、生きる力を育む教育活動ができたか。	A	『開拓』に込められた「考える」力、「助け合い」の心、「やり抜く」気持ち、「強い体」を生徒たちが育んでいけるよう生徒、家庭、地域と一体になった教育活動を推進していく。	A	A
発寒小学校	共生と自立～はっさむを自ら進んで高め、自他のよさを認める子を育む教育活動ができたか。	B	「感じて動く（自分で決める・手応えを感じる）」教育活動を求めて、という言葉掲げて継続的に安定した教育実践や効果的かつ効率的な教育推進を行っていく。	A	A
発寒東小学校	令和の日本型学校教育の充実に向けて、教育活動の具現化が図られたか	A	個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り、「いい声・いい顔・いい姿」の子ども像がより一層現れるよう、DXの推進などの具体的な取組を継続、発展させていく。	A	A
学校関係者評価委員会 (学校運営協議会) による意見		・3校それぞれの特色を感じます。小学校で色々な実体験を経験し、中学校では自ら企画運営し、いきいきと行事に向かう姿に9年間の成長をとても感じました。 ・地域、家庭との連携は、とても重要だと思います。発寒小で展開されている地学教、そしてそれらを統括するSSK-Gが間に入ることで、教員の負担を増やすことなく実践に結び付けられる、そのような体制が各校にあればよいのでは、と思いました。 ・各校それぞれでは、PTAや地域との連携はあると思いますが、学運協としても関わっていくことは、今後必要になってくると思います。子どもたちが安全安心で学校へ通うために、学校・家庭・地域の連携をSSK-Gとしてお手伝いできたらと思います。			